

『だれかの笑顔のために』

たった一言が人の心を傷つける たった一言が人の心を温める

言葉は大きな力を持っています。たった一言でも相手を笑顔にすることもできるし、悲しい気持ちにさせることもできます。私は3歳の頃、大やけどをしました。小学生の頃、そのやけどのことをバカにする一言は、何十年も経過した今でも忘れることができません。それだけ人の心に残るのです。

最近、学校でそのような人を傷つける言葉を平気で使っている場面にでくわすことがあり、とても心配しているのです。たった一言でも、一度相手の耳に届いた言葉は消すことはできません。ずっと相手の心に残るのです。だからこそ、あたたかい言葉を交わしながら友達とつながっていく。そんな学校生活を送ってほしいと願っています。

★**ありがとう!**★

ことばの力

ことばの力について書いてある本を読んだことがあります。その本には、工学博士の五日市剛さんの「ツキを呼ぶ魔法の言葉」の講演を聴いた時の話が書いてありました。

当時26歳の五日市さんは、イスラエルを旅行中トラブル続きだったそうです。財布を無くしたり、詐欺に遭ったりと踏んだり蹴ったりな日々。ある日、70歳ほどのおばあさんが厚意で宿を提供してくれました。そして、彼女は「あなたが幸せになりたいのなら」と、以下のことを教えてくれたのだそうです。

- ◆嫌なことがあったら、すぐ自分に「ありがとう」と言うこと。すぐに言えば不幸は続かないし、逆に良いことが起こる。
- ◆嬉しいこと、楽しいことがあったら、「感謝します」。すると、またそう言いたくなるような出来事が起こる。
- ◆「〇〇になりました。感謝します」と心を込めて言い続け、努力していると願いはかないやすい。

「ありがとう」「感謝します」は自分を変え、ツキを呼び込む魔法の言葉と聞いた五日市さんは「どんなときでもすぐに言えるように」と手の甲にペンで書いては日々実践されました。すると、不思議なくらいにまわりの人との人間関係がよくなっていったのだそうです。

講演では、感謝の言葉や魔法の言葉を実践してきた人たちの事例がいくつか紹介されました。ロンドンオリンピックで金メダルを獲得した村田諷太選手は、3年前から「ボクシングで金メダルを取りました。ありがとうございます」と冷蔵庫に貼り付けて夫婦で唱和していたのだそうです。

★**感謝**★

☆絶対に言ってはいけない言葉☆

また、おばあさんは、言われました。「言っちゃいけない言葉があるの。これを言うと、今まであなたが積み上げてきた徳とか、ツキとか、運が全部ふっとんじやうのよ。」

もう、五日市さんはびっくりして、「どんな言葉ですか。そんな恐ろしい言葉、あるんですか？」って、聞いたんです。おばあさん、こう、言うんです。「汚い言葉・・・たとえば、“バカ”とか“死ね”とか そういう言葉を使う人は、そういう人生を歩むのよ。だから、きれいな言葉を使いなさい。」

汚い言葉を使うと、汚い心が出てきて、汚い心が出てくると、さらに汚い言葉が出てくるんです。それに、汚い言葉って、人が言っているのを聞くだけでも嫌な気持ちになるでしょ。自分が汚い言葉を言った時って、その言葉を一番近くで聞く人って誰だと思いますか？一番近い人って、自分ですよ。自分の耳が、自分の言葉を一番近くで聞くんですよ。相手に向かって嫌な言葉を言っているつもりでも、実は自分に一番その言葉を聞かせているんです。自分が嫌な気持ちになるんです。汚い心が出てくるんです。まさに、自分が吐いた毒で自分がやられることになるんです。

(引用文献:「私が一番受けたいココロの授業」比田井和孝・比田井美恵 著)